

# ひめまつ

須賀 淳校長先生藍綬褒章受章記念号

44



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

武蔵



ひめまつ 目次

(第四十四号)

表紙絵……………島田武幸

題字……………石川木魚

写真……………写真部・編集部

巻頭言

藍綬褒章をいただいて……………

校長 須賀 淳……………

1

※生徒会員の参加望む

(生徒会会長に就任して……………)

篠原 知子……………6

※事前の準備が大切

(任務を終えて思うこと……………)

小堀 景子……………7

〈声〉

自分とは何か……………

8

「自分とは可能性の塊」

三年 遠藤 紀子

「自己嫌悪の克服」

三年 松尾亜矢子

「一つ一つ成長していく自分」

三年 中川 淳子

「生きていることこそ自分の証明」

三年 鈴木久仁子

「すなおに生きていく」

二年 塚田 敏行

「自分の存在を深し求めて」

二年 増渕 尚美

「四十六億分の一の私」

二年 関谷美保子

「自信を持ちたい」

二年 大森 直美

「今を精一杯生きること」

二年 樋口 文子

「周囲に理解してもらおう努力」

一年 上野ひとみ

「本当の自分の姿を見つけない」

一年 中村 功史

「悩み乗り越えて成長」

一年 永野 大輔

「自分を見つめなおす」

一年 荻野 展生

\*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)

17

「アンネの日記」

三年 西里 貴子

「黒い雨」

三年 松尾亜矢子

「黒い雨」

三年 藤平 律子

「失われた地平線」

二年 堀田 由香

「泥の河・蜚川」

二年 高野 光世

「月明かりの中庭」

二年 関野真佐子

「蒼き狼」

一年 夕下 智亮

「芋粥」

一年 森口 昌紀

「人間失格」

一年 増野 弥保



◇作品集

詩

〔三年〕草野 真紀 他

短歌

〔三年〕奥野健太郎・鈴木 信子 他

俳句

〔三年〕岡田 愛・手塚太加光 他

☆あとらんだむ

〔二年〕吉成 典子・松井利里子 他

月関西・四国・大洗・日光の旅

〔三年〕鈴木さえ子・小林ひろこ

〔二年〕高橋貴美代・飯岡 准子

〔一年〕鈴木 友香・菊地 史恵

招待席

江川 利春・和久 誠・伊沢 雪夫・角海 武・篠崎 久介

◆わがホームルームの紹介

◆委員会・クラブ活動この一年

◆学友会の奉仕活動

★学園ニュース

◇告知板

附属中コーナー

読書感想文入賞作品・PTA役員 その他

◎平成元年度生徒会報告

◇就職状況

◇職員住所録

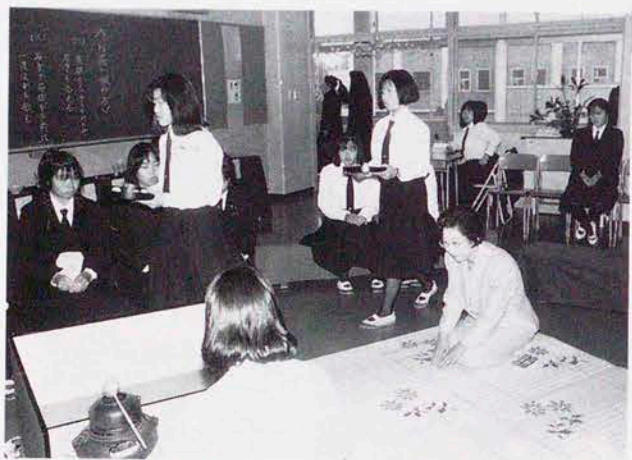
◇編集後記・奥付





▲よろしくと対面式であいさつをのべる新入生(4月)  
▲「蛍の光」に送られて、晴れの卒業式(3月)

# 学園の四季



▲おしとやかにお茶をたしなむ、校内展示発表会で(11月)



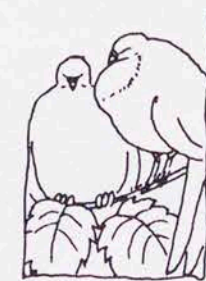
▲春の大洗海岸へ、一日旅行(5月)



▲生徒会総会開かれる(6月)



▲雪の朝(2月)



## 宇都宮短期大学附属高等学校

### 校歌

作詩 菅谷徳次郎  
作曲 野原幸夫

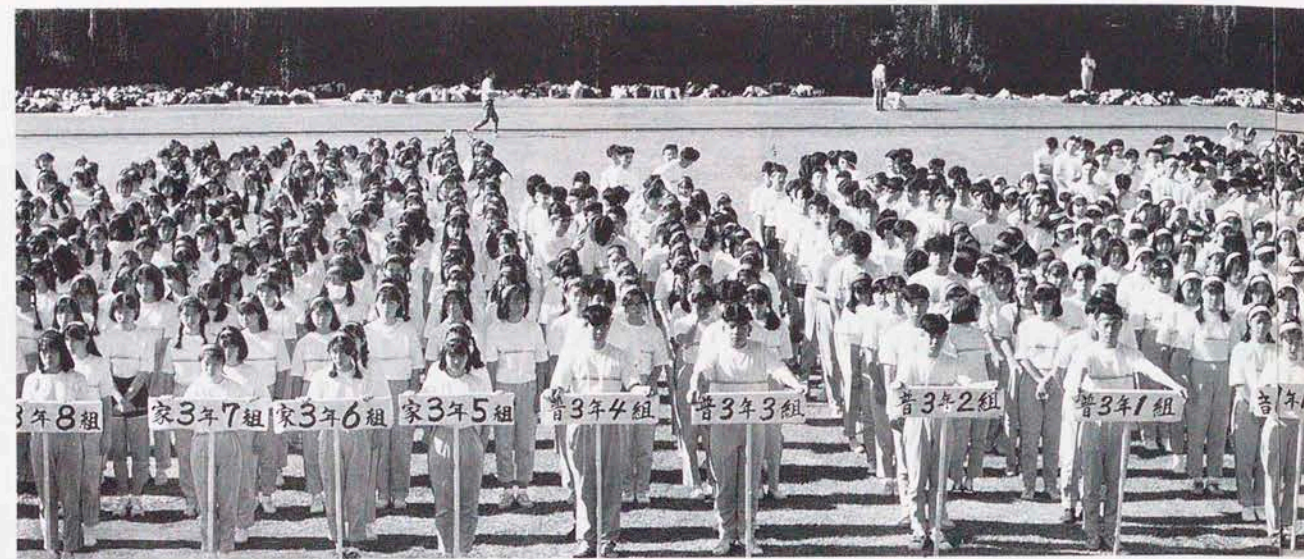
ふたらのたーかねをはるかにあおぎ  
 にわもにしーげれるひめまつこまーつ  
 まかなのみにちすおはまきくあよと  
 かわらぬみさおはまきくあよと  
 かたみにちかいていそしみはけむ  
 おしなえびの(の)に(わ)ここ(そ)けに(と)め(う)た(け)れ  
 あわ(れ)と(め)う(で)と(た)こ(の)ま(な)び(や)

校歌

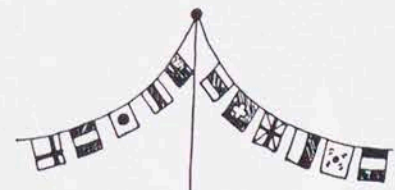
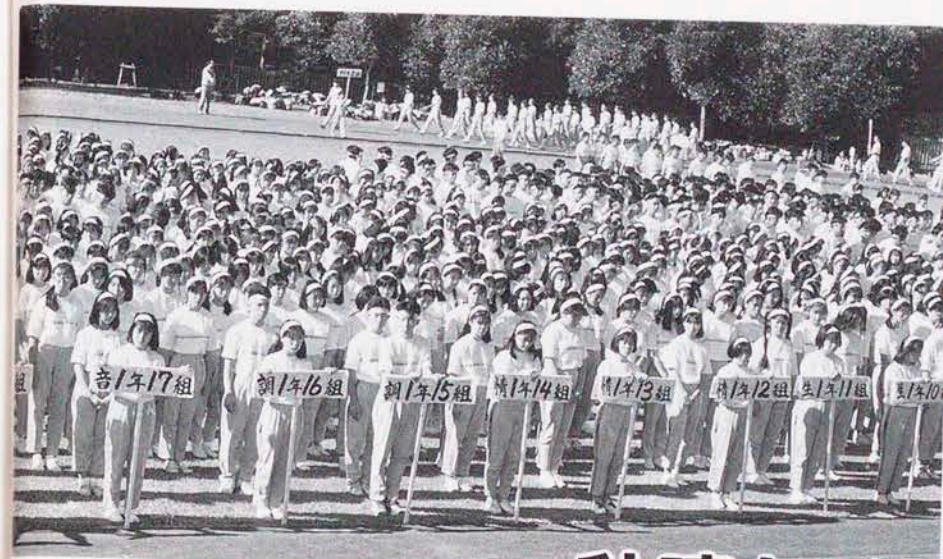
一 二荒の高嶺を 遙かに仰ぎ  
 学びの道筋 まさきくあれと  
 かたみに誓いて いそしみ励む  
 教への庭こそ げに尊けれ  
 あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松  
 変らぬ操は 千代万代と  
 かたみに祝いて いそしみ励む  
 学びの庭こそ げに芽出度けれ  
 あわれ芽出度 この学びや





▲闘志を秘めて一全員集合



平成元年10月24日  
県総合運動公園

# 秋晴れの下で大運動会



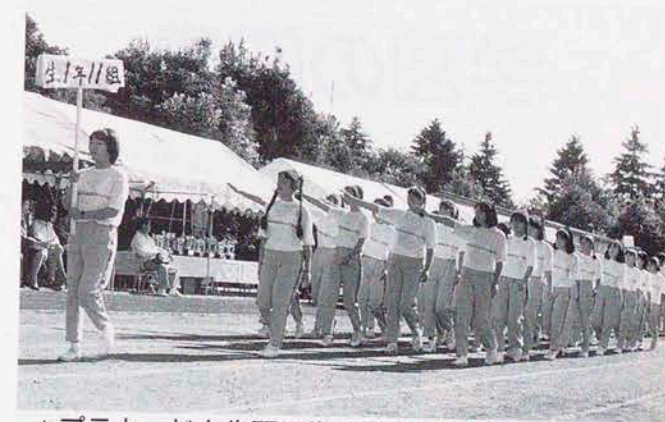
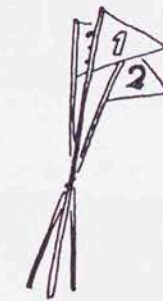
▲力走、力走、また力走



▲名物 男子生徒による「エッサッサ」



▲青春がガッチリ四つに組んで



▲プラカードを先頭に堂々の入場行進



▲校長先生から晴れの優勝杯を受ける



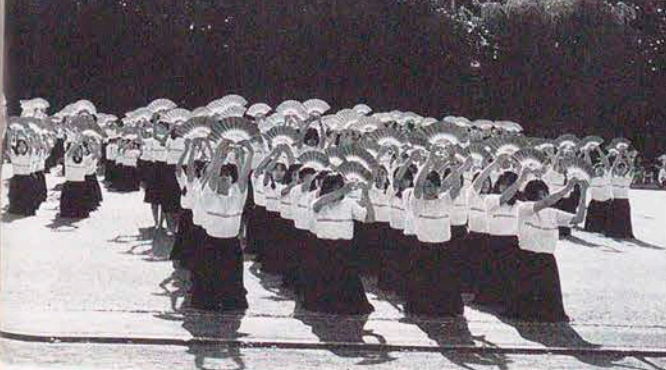
▲フィナーレは華やかに学園音頭で



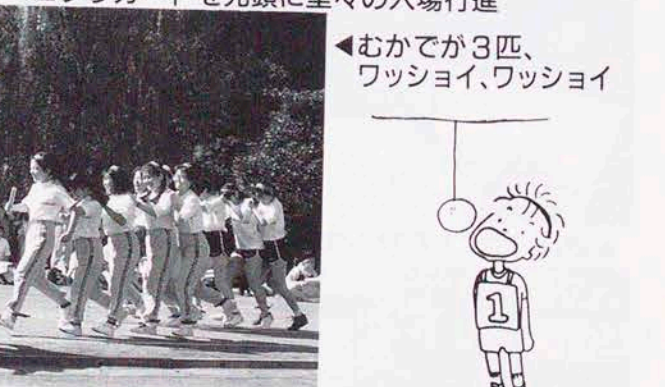
▲校長先生も「玉入れ」で活躍



▲当日のメイン・イベント 和やかな昼食風景



▲逆光に美しく映える「扇の舞」



▲むかたが3匹、ワッショイ、ワッショイ



▲大会を盛りあげる裏方さん



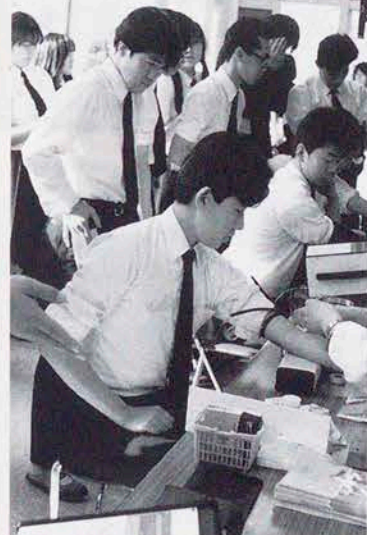
各科だより



▲県消費生活センターでの商品テスト(家政・生活教養科)



▲校内球技大会では実力を発揮(普通科)



▲ワープロのお手並みを披露(商業・情報商業科)

卒業演奏会で精進の成果を発表(音楽科)▶

◀「若い血を社会のために」と献血奉仕(調理科)

生徒会役員

会長



篠原知子

会計



床井崇子

議長団



黒崎裕二

副会長



内田知子

会計



荒川清美

議長団



岸岡志保

副会長



宇津木弘美

庶務



山崎陽子

議長団



福田有美

庶務



岡本陽子

議長団



横山裕之

巻頭言

藍綬褒章をいただき

校長 須賀 淳<sup>あつし</sup>



日)に本学園は誕生したのです。奇しき因縁といえましょう。昨年十一月十五日、文部省の隣りにある国立教育会館の会議室において、私たちは文部

平成二年が明るくあけました。今年、天皇陛下の即位の礼が行われるおめでたい年です。同時に、本学園にとりましては創立九十周年を迎える記念すべき年に当たります。

この創立九十周年を前にして、私は平成元年十一月三日、文化の日に「多年にわたり、わが国の教育事業の発展に尽力した」ということで、藍綬褒章を賜わるといふ光栄に浴しました。十一月三日は、いうまでもなく本学園の創立記念日です。

明治三十三年十一月三日、当時の天長節(天皇誕生



大臣から藍綬褒章の伝達を受けました。当日の伝達式は、紋付や訪問着姿の夫人同伴であり、また受章者の中には有名な音楽家や文化人、俳優などもおりましたので、厳肅ななかにも華やかな雰囲気でした。

伝達式後、受章者は褒章を胸につけて、天皇陛下にお目にかかるため文部省の車で皇居に向いました。坂下門から参内し、宮殿の正玄関である南車寄せから宮殿に入り、春秋の間という立派な部屋に通されました。受章者が前列に、その後配偶者が立ち、陛下のおでましを待ちます。間もなくモーニング姿の陛下が見えられて、そこで陛下から長年の労苦に対するねぎらいと励ましのおことばがあり、ついで受章者代表からお礼のことばを申し上げて拝謁は終了しました。

そのあと、宮殿の前庭で記念写真の撮影を行い、ひき続いて皇居拝観がありました。宮殿前から二重橋(上)の方の正門鉄橋を渡り、上道灌漑のわきを通り、宮中三殿(賢所、皇霊殿、神殿)に参拝しました。皇居の奥は静寂そのもので、昔の武蔵野のおもかげを色濃くとどめております。ついで、昭和天皇の生物学御研究所と陛下が田植えをされる水田を拝見しましたが、大へん質素な建物でびっくりしました。さらに陛下のお住居である吹上御所の前を通り、乾門から退出しました。おみやげに菊の御紋章の入ったお菓子一折りと恩賜の煙草一箱をいただきました。

東京駅から宇都宮に戻り、いただいた褒章と御下賜品を父母の霊前にそなえて報告をした次第です。

父(友正・前校長)も昭和三十七年に同じく藍綬褒章をいただいておりますので、父子二代の

受章は珍しいと皆さんから祝福のおことばをいただいております。また家内の万里子は、父の受章のときも、病床にあった私の母の代りに父の受章に同行しておりますので、二度目の光栄となりました。

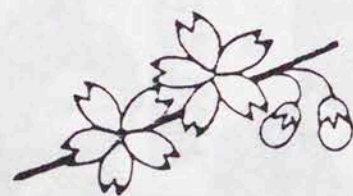
私は、本学園の創立者須賀栄子、二代目の須賀友正のあとをついで三代目になりますが、この受章を機に、先生方や生徒の皆さんとともに、創立九十周年を迎える本学園の発展のために、さらにいっそうの努力をしたいと思っております。

#### 褒章について

褒章は、勲章と同様に国の栄典であり、内閣の助言と承認に基づいて天皇陛下から授与されるものである。褒章制度は、明治十四年に太政官布告をもって条例により制定された。

褒章の章身は、「褒章」の二字を桜の花で飾った円形の簡素なデザイン(銀製メダル)である。章を吊す綬(リボン)の色が藍色のものが藍綬褒章で、藍綬褒章は教育、衛生の事業など公衆の利益のために尽力した者に授与される。

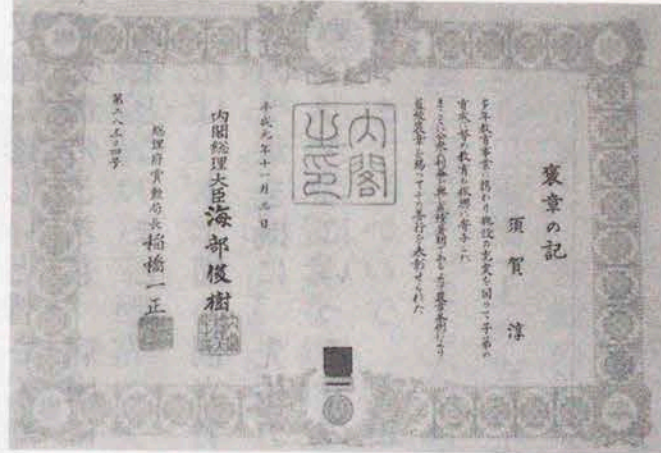
(総理府賞勲局のしおりから)







授与された藍綬褒章



▲教育事業に寄与した旨の褒章の記

おめでとうございます

須賀 淳校長先生が藍綬褒章を受けられました。巻頭言にもありますように、この褒章は教育事業などを通して社会公共に貢献された方々に授与されるものです。先生は昭和二十四年三月に東大を御卒業になられて、文部省初等中等教育局に勤務され、文部大臣秘書官、大臣官房人事課副長を経て、昭和三十七年四月文化財保護委員会記念物課長、昭和三十九年七月初等中等教育局教科書管理課長、昭和四十一年七月初等教育課長となり、十八年間文部行政の第一線で活躍されました。昭和四十三年七月父君である須賀友正理事長・校長先生の要請で、先生は私学教育に一身を捧げることを決意し、



の褒章伝達式場

文部省



▲植木文化庁長官(文部省での同僚)とご一緒の校長先生(左)

受章の日の校長先生ご夫妻▶



▲受章の記念撮影、前列右から四入目は須賀校長先生、後列右から三入目は万里子先生、前列左端には歌手の春日八郎氏、隣りに俳優の船越英一氏も見える。

四十三歳で文部省を退職し、学園の経営に当たることになりました。学校法人須賀学園理事、宇都宮短期大学副学長、附属高等学校副校長として、宇都宮短期大学の発展充実に尽力されるとともに、附属高等学校の拡充整備に努力され、さらに附属中学を創設して以来、今日に至るまで満二十二年間私学の振興に貢献されました。

先生は学園の多忙なお仕事のほか、栃木県私立学校審議会委員や栃木県文化財保護審議会委員等として栃木県の教育行政に貢献されております。また、日本私立短期大学協会理事、日本私立中学高等学校連合会常任理事・評議員、栃木県私立中学高等学校連合会副会長として私学振興に尽

力され、さらに文部省の理科教育及び産業教育審議会委員および大学設置審議会委員にも任命されて、国の教育行政に貢献されております。昭和六十一年にはその高潔な人格と高い職見により栃木県公安委員会委員に任命され、栃木県警察を管理して、県内の公共の安全と秩序維持に尽力しておられます。

さらにまた、長年にわたり栃木県文化功労者選考委員を勤めるとともに、栃木県交響楽団会長、栃木県オペラ協会会長、財団法人栃木県文化振興事業団理事として栃木県の文化の振興に寄与しておられます。どうぞ、おからだを大切にいつまでもお元気で御活躍されることをお祈りいたします。



# 学園ニュース

## 今年も積極的な活動

### インターアクトクラブの報告

インターアクトクラブでは、今年から初めて行われることになった海外研修（韓国）に参加したり、足利市で開催された年次大会に出席するなどの活動をいたしました。次に二つのレポートを掲載いたします。

#### 韓国研修旅行をふりかえって

二年 山内 香織

本日は、宇都宮西ロータリークラブ例会に出席させて頂きまして、ありがとうございました。去る八月七日から十日にかけて行われました、第二五五地区インターアクト韓国研修旅行について、御報告をさせて頂きます。私達、宇都宮短期大学附属高校イン

ターアクトクラブからは、私達六名の会員が参加させて頂き、宇都宮西ロータリークラブ、インターアクト委員長の柴田智男先生、インターアクト委員の星野康先生、本校の磯茂江先生が引率して下さいました。八月七日、朝、成田を出発。正午、機内から見下ろす韓国の景色は、あまりに日本に似ていて、私達を驚かせました。間もなく金浦空港に到着。一歩

ソウル市内へ踏み出してみると、確かにそこは異国の地。しかし、どこか日本と重って見えるのです。「ああ、これが過去に、日本が残した傷跡の一つなのかもしれない。」そんな思いにかられた第一日目。その日はソウル・インターアクトの生徒の方々とのお歓会がありました。まず私達を迎えてくれたのは、ソウル芸術高校に飾られた、たくさんの絵画や彫刻。どれも、高校生が創作したとは思えない、素晴らしいものばかりでした。正直なところ、言葉が通じることが心配だったので、英会話、ジェスチャーなど、あらゆる手段を使って理解し合えた時の喜びは一朝でした。又、感心したことに、韓国の学生の皆さんは、活気に満ちていました。現在の日本の学生は、一概には言えませんが、無気力なのではないでしょうか。私は反省しました。



다기 篋 955 地區 인터

ソウル芸術学院での交換会

でにらみ合いを続けなければならない両国の兵士たち。もともと一つの国の同じ民族である彼らが、何故こんなことをしなくてはならないのでしょうか。現在、韓国人の四人に一人は、北朝鮮にいる身内と離れて暮らしているようです。「北朝鮮にいる祖父に会いたいの、手紙さえ送れず、生きているのかどうかも分からない。」日本人よりも流調な日本語で話すガイドの林 恩愛さんは、そう言って悲しそうな顔をしていました。

八月八日は韓国民族村へ行きました。昔の住居の巧みな建築技法、力強い民族舞踊と太鼓の音、そして伝統工芸の数々。興味は尽きませんでした。八月九日は、三十八度線の板門店へ行きました。この日はちょうど、長崎の原爆記念日と言うこともあって、「戦争」について、深く考えさせられました。同じ空の下にいなながらも、国境線



景福宮での一行



景福宮を訪れる

韓国と北朝鮮、隣りどうしに位置しながら、両国間の距離は、とても遠いのです。早く彼らの戦争が終わってくれれば、と祈らずにはいられません。今回の研修旅行を通じて、韓国に新しい多くの友ができました。また、多くの知識を得ることができました。ただ一つ忘れてならないのは、日本が戦時中、韓国に残した傷は大きかったと言うこ



とです。広島や長崎の原爆。確かに日本も多くの被害を受けましたが、また日本が多く国への加害者であったことを顧みなければならぬと思います。

最後になりましたが、このような有意義な研修旅行をお世話下さいました第二五地区インタークラブの長瀬委員長様、宇都宮西ロータリークラブの皆様方や先生方。また、お忙しい中を引率して下さいました柴田先生と星野先生に、心からお礼を申し上げます。私の御報告とさせて頂きます。有難うございました。

(クラブ例会の報告から)

### 年次大会に出席して

三年 坂部 恭可

いつも私達インタークラブのために御指導をいただきましてありがとうございます。私はこれから、去る八月十九日、二十日の二日間にわたって開催されました、国際ロータリー第二五地区第二十四回インタークラブ年次大会について、御報告させていただきます。

今年度は足利学園高校がホスト校となり、「大きく育て、思いやり」というテーマのもと、足利市のニューミヤコホテルを会場として開催されました。会場の都合もあって今回の大会は人数制限があり、本校から十三名の生徒が参加致しました。また宇都宮西ロータリークラブからは、お忙しい中をインタークラブ委員の柴田哲先生が御参加くださって、御指導くださいました。また本校からは顧問の大崎雄昭先生と五十嵐紀子先生が統導してくださいました。

八月十九日にマイクロスバスで本校を出発、予定よりも早く足利に到着し、大会会場のニューミヤコホテルで、開会式を行いました。開会式では、バストガバナリーの小竹俊夫先生や、インタークラブ地区委員長の長瀬弘先生のご挨拶がありました。とくに本年度は足利学園インタークラブ二十周年記念式典もあわせて行われました。

開会式のと、ころみ学園の園長でいらつしやる川田昇先生が、「ぶどう畑の笑顔」という演題でお話をしてくださいました。その中では、ころみ

学園での先生の体験談が私達にとってもわかりやすく、また感動的で、人生の生き方を改めて考えさせられました。中でも、「鳥に翼があるように、人間には労働がある」という先生の言葉は印象的でした。

その夜七時から交歓会が行われ、各学校ごとに出し物を披露しました。私達は、合唱曲集から二曲を選択して楽しく歌いました。お互いに時間の経つのも忘れて、楽しい一時を過ごしました。

翌八月二十日は、朝から渡良瀬河原でラジオ体操を行い、何とも言えないさわやかな気分ですタートしました。ホテルに戻って朝食を終えた後、別館に移動し、閉会式を行いました。

それから足利史跡めぐりに出発し、ぼん阿寺と足利学校を見学し、最後に「ころみ学園」を訪問しました。この学園は、百十人という多くの知恵遅れの方たちが共に学び、共に働き、生活している施設です。私が見た感じでは、普通のひととどこが違うのだろうと思っくらしいに一生懸命にぶどう畑で働いていました。その姿は、誰が見ても

### 報告

#### もう一つの家族

二年 須田 朱美

輝いて見えたでしょう。前日の川田先生のお話しを思いおこしながら見学させて頂き一層感慨深いものがありました。私は、そんなにも一生懸命に働いているたくさんの生徒たちを見て、自分の今までの考えの甘さに反省させられました。私達は、五体満足に生まれ育って来ました。それなのに今までに何か真剣に取り組んだことがあったでしょうか。

あつという間の二日間の年次大会でしたが大変勉強になりました。これを機会に、これからの自分を見つめ直すことができたと思えました。最後にになりましたがこのような貴重な体験をさせて頂くことができました。のも、宇都宮西ロータリークラブの皆様方の御指導、お力添えがあったからと、深く感謝致しております。またお忙しい中、引率して下さいました柴田哲先生にも厚くお礼申し上げます。私の御報告とさせて頂きます。ありがとうございます。

「アケミ」今でも名前を呼ばれる度に、日本にはいるはずがない私のもう一つの家族の心が怖いくらいに私の心によみ返ります。日本に戻ってからの私はこのような切實ばかり。念願のアメリカカリフォルニアでのホームステイをこの夏休み体験し、再び学校生活に追われる毎日を見ると、「あの十八日間は何だったのではないか。」などと考えたりします。しかし、私は確かにこの体いっぱいアメリカを噛みしめて来たんです。

ホストファミリーと始めて会ったのはティチャーコーデイネーター(私たちの英会話の先生)の家でした。優しく笑えむ私のアメリカでの家族がドアの前にずらりと並んでいました。そして笑ってごまかすことぐらいしかできない私にゆつくりと声をかけてくれました。この瞬間、私にはもう一人の父、もう一人の母そして二人の弟、二人の妹ができたわけです。正直言ってこんなに大勢の家族に一人でステイす

る自信は全然ありませんでした。でもはきとしてしつかり者のカリ(十一)人、人形のようにキュートなアリソン(七)サラ(五)、この四人の弟や妹が私の不安を消してくれました。家族全員が私を好いてくれました。私も四人が、いいえ家族全員がとても大好きになりました。みんな私に興味をもってくれたらしく質問せめにあつてしまいました。おかげで不安どころか知らないうちにその気になって英語を話していたのです。冗談なんかも言ったりして。月金のスケジュール(午前中は授業、午後は軽い旅行)にも四人の中のどれかは一緒に来てきてくれて、いろいろな場所へ、かかえきれないほどの思い出を作ることができました。

私の家族は宗教を心がけていました。日曜日には教会へ連れていってもらいました。歌好きの私は教会での歌も楽しく歌うことができましたが、儀式が終わった後にいきなり日曜学校とか言う講習を小さな部屋に入れられてわけのわからない英語をべらべら何時間も話されたのは「ビックリ」でした。二回ほど日曜日がありませんでしたので二回教



会へ行きましたが、二回目の教会での儀式の時、私のママはスピーチに出ることになっていました。もちろん全部英語で話しているのが意味のとれない部分もありましたが、ママは泣きながら、「私の家には今、一人の日本人の子がいます。もう少して日本に帰ってしまいます。私はその女の子を失うのがとても悲しい。」と言ってくれるのです。私はこんなに愛に包まれて、本当にアメリカに来てよかったと心から涙でいっぱいになりました。

せっかくアメリカの生活が定着し始めた頃、絶対来てしまおう別れの時がありました。あんなに愛し合えた家族、本当に優しいママとも別れなければならぬ。さよならパーティーの日、教会のあの事があつた日から今日までは楽しい中にも悲しさのある日々でした。ママ何度となく、「ステイ・ヒア」と繰り返してつぶやき、「日本の両親には電話してあげるから」と言います。私はどうしてよいかわからない、言葉にできない感動を覚えました。さよならパーティーとは私たちの手で恩返しをする会です。積極的に参加しようと思っただけで、友達（本校二年、

岩澤陽美さん）と二人でピアノの歌（大江千里「消ゆく想い」）をやろうと計画してました。そして実行することができました。なんと、それにプラスして同行の先生（帯広第三高校）の英訳で内容を説明し、発表することになりました。パーティーでのメインとなつてしまいました。少しはずかしかったけれどもやってみようと思えます。今でもその曲をふと思いついてはピアノで演奏しています。終了証を家族の手からもらった時はボロ泣きしてしまいました。

ママが泣きながらつぶやく言葉に私は「サンキュー」としか言えませんでした。それが私の精一杯の気持ちだったからです。パーティーも無事に終わった帰り道、カリが私たちの発表した曲を口ずさんでくれたのは、再び涙してしまいました。

「英語が話せるか心配だった私が、こんなに外国人と理解し合うことができるのだ。」今はこの事実が自信となっています。確かにその他のアメリカの文化や様子、物価、日常マナーの違い、風景、いろいろな面でいろいろ勉強になりました。もちろん英語力の勉強にも。しかし私の心の中で一番大きかった

たことは大きなアメリカという国の普通の大家族の中で一緒に生活し家族と理解し合い、愛し合えたことです。その中で英語も身につけることができました。私のアメリカでの家族とは、十八日間だけのつきあいでしたけれど、もう一生忘れることはないでしょう。手紙の交換もしています。その気になれば国際電話だって。もっともっと勉強をして再びランドル一家に会いに行きたいと思っています。私とランドル家はもう、一つの家族と言つてよいのでしょうか。



もう一つの家族と一緒に須田さん

## 私の家はあなたの家 アメリカで学んだもの

二年 大塚真理子

若いうちに、外国の文化に触れておきたい。十六の夏に、何か記念に残ることをしたい。そんな思いが実現し、夏休みを初日から利用して、アメリカ研修旅行・ホームステイに参加しました。私が滞在した所は、カルフォルニア州の最南部、かつてトム・クルーズ主演の映画「トップ・ガン」の舞台となつた、サンディエゴという美しい都市でした。

私の滞在家庭は、一日に三十回くらい「ハロー」と元気に声をかけてくれた、明るい二人の兄弟と、英語の先生であり音楽・スポーツ・フランス料理からメキシコ料理まで何でもこなす母の三人でした。そのため、真夜中に時速八十キロのスピードで、街の夜景を楽しむといった、スリルあるドライブに連れていってもらったりしました。私は二人一家庭でしたが、なるべく人に頼らず、自分から積極的に話し、聞き、行動するように努めました。そう

すると慣れてきたこともあって、英語が自然と耳に入ってくるようになりました。時には冗談を交わしたりして、夜も寝ずに朝の四時頃まで、大声で笑ったり、しゃべったりしていたら、近所の人から何度か苦情を受けてしまったことを今でもよく覚えてます。

わからないことがあつたら何でも聞くように言われたので、家族を質問せぬにしてしまつたこともありました。すると私も質問せぬにされました。最初は身近な学校生活や日本語について、最後には政治的なことや、日本ではどのようにして人に愛を伝えるのかなどと問われて、さすがにとまどいました。そんな時には、手振りや身振りで示したり、絵で表したりして、ようやく理解してもらえました。英語力がいかにあるかということより、むしろ相手に伝えたいという熱意が大切であることにしりました。

私は結婚式に招待されました。日本の披露宴だと必ず司会がいて、プログラムがきちんと決まった形式ばつたものですが、アメリカのウェディングパーティーではメインの乾杯とケーキカ

ットを除いて、ほとんどみんな個人個人でそのパーティーを楽しんでいました。

家族で日本料理を作っていたのですが、お米を磨がずに炊いているのには驚きました。箸がうまく使えず、最後にはおそうめんを手づかみで食べるという有様でした。また、浴衣の着方を教えたり、書道を通して日本語を教えたりしました。慣れない手つきで一生懸命書く姿が印象的でした。私が教えた日本語をその場で全部覚えてくれたのはうれしかったです。

アメリカ人は非常にパーティー好きな人ばかりで、私の滞在期間中に一年間分のパーティーをやつてしまうほどでした。それから、時間のルーズさには、ちょっとびっくりでした。約束した時間より二時間も遅れて来たのに、堂々と「ハロー」と言うくらいです。

アメリカには英語を学ぶ為に行きましたが、日本との違いを様々と見せつけられたような気がします。親と子供も縦のつながりではなく、同じ人間として並列の線で結ばれていたし、学校



の授業は日本と比べものにならないくらい楽しかったです。

今回、私は外国へ行つて、生まれて初めて言葉が通じることの大切さを、ホストファミリーとの生活を通して実感しました。失敗を恐れてはいけない、それが勉強の第一歩なのだからというアメリカの精神。私は心の広さに感動しました。見知らぬ人と誰とでも心から話し合える人柄が、私をもう一度アメリカに行きたいという思いにからせました。異文化に実際触れることができたということは、将来いくらお金を出しても買えない貴重な体験になりました。これらを経験して、物事を柔軟性を持って考えられるような国際的な人になるよう努力しようと思います。

帰国する時に、「私の家はあなたの家だから、いつでも好きな時に戻って来なさい。来年の夏、また必ず会いましょう。」と抱きしめながら言ってくれたファミリーの温い言葉は、いつまでも忘れないことでしょう。



ホームステイの大塚さん（中央）

### 県消費者生活センターを

見学して

一年 星野 陽子

夏休み中に行なわれた消費者生活センター見学は、私達生活教養科にとってこれから学んでいくことに大きくプラスになる材料がたくさんあり、その一日を有意義に過ごしました。

### 福祉・介護の講話を聞いて

三年 高橋めぐみ

私達家政科三年は、夏季夏季補講の一日を使い、二人の講師の先生から福祉と介護についての講話を聞きました。

はじめに、「高齢化社会と福祉について」ということで、宇都宮市福祉課長の小関忍先生の話を聞きました。日本の福祉のあゆみや、現代の福祉の現状、そして現在最も重要視されている、高齢化の現状まで、私達に理解しやすい内容で、説明して下さいました。日頃福祉、福祉と一口に言いますが、福祉と言っても老人福祉や児童福祉、そして生活保護まで、いくつもの種類があり、さらに細かく分類されていました。また、福祉ということが騒がれてきたのは最近のことですが、実は昭和二十二年には児童福祉法が制定されその後、次々と福祉法が制定されてきたということでした。そんな中で、特に私は、老人扶養の問題が頭に残りました。宇都宮市を例にすると、現在六十歳以上の老人は、市総人口の約14%

センター入口を入ると、センターの方々の手によって作られた、目で見て手でたしかめて、賢い消費者になるための展示場になっており、中でも一番印象に残っているのは、紙芝居のようなもので、「塩漬けになった中年男」という話です。栄養のバランスを考えずに、漬け物や味の濃い食べ物などばかりを食べていて過剰摂取のため脳卒中で死んでしまった話は、私自身、幼い頃に塩分のとり過ぎで、減塩正油を使用していた経験もあり、本当に身にまさされる思いがしました。

そして、今の青少年の食生活に欠けているのは、ビタミン類やカルシウムで、これも血や骨となる源ですから、これからはいくらインスタント、レトルト食品の繁栄の時代であっても、果物や魚、豆類など栄養などの供給源は必ずとるようにしたいとこの展示資料を見て思いました。

また、今誰でも一枚は持って活用している便利なキャッシュカードでも落とし穴は沢山あるということで、「カード時代の落とし穴」という映画を見ていただきました。この映画を見て消

七人に一人が六十歳以上ということ、それが二〇二〇年頃には、四、五人に一人の割合になるということでした。そこで生じてくるのが、老人扶養の問題です。計算上の数字では、二〇二〇年頃には、労働者二、三人に一人の割合で、老人扶養を負担することになるということでした。高齢化が進む一方での、出産の減少。これからの社会の対策に、興味を持った反面、その問題は、確実に私達にもふりかかるということを実感しました。

次に、「ねたきり老人の介護について」を、健康課主査の高橋良子先生が講話してくれました。介護をするにはまず、老人についてよく理解をすること、などの介護の心得についての簡単な説明の後、生徒をモデルにした介護の実演を見せてくれました。片半身がリュウマチのねたきり老人、という例での実演です。老人の起こし方や、寝かせたままシートを取り替える方法など、それを見ているうちに、どの動作にも、共通したことがあるのに気が付きました。老人を、過保護にしないのです。先生の話では、老人にも、

費者誰もが安易に利用しているカードの存在を改めて見直す必要があると教えられました。

映画の次に行なわれたのが商品テストです。私たちは、市販の清涼飲料水つまり、炭酸飲料、果汁百パーセントのジュースなどで、糖分はどれ位含まれているか、着色料はどの位使われているか、班ごとに自分たちの手で実験し、ジュース一缶中の糖分と合成着色料について統計をとりました。実験の結果、かなりの糖分、着色料が使われているものも数多くあり、私達消費者自身が勉強し、できるだけ良い商品を選んで飲んだりするように注意しなければならぬと思いました。

消費生活センターは前にあげたように、消費者に賢い人間になってもらうために手作りの展示品を展示したり、実際に商品テストをする機会を設けたり、消費者の苦情、品物に関する質問相談を受けてくれる所です。私はここで学んだ知識をもとに、生活教養科での勉強を生かし、将来は賢い消費者になりたいと思います。



自分で動く能力はもっているのだから、それを上手に引き出してあげることが大切だということでした。また、それによって、介護者の労力も少なくなり、精神的にも楽になるということでした。介護というと、病人の手助け、としか考えなかった私ですが、そうではなく人間が人間として生きるための手助けということを聞き、改めて、介護のあり方を考えさせられました。

この日の講話で初めて知ったこと、今まで以上に理解したことなど、私にとって得たものは、とても大きなものでした。この時感じた気持ちを続け、これから待ちうけている数々のことに、積極的にとり組んでいこうと思います。

### オーストラリアの

#### 女子学生来校

オーストラリアからの交換留学生として首都キャンベラ市のラッドフォード高校から、同校一年生のプリジット・ウイルキンソンさん(一六)が、昨年十二月から一月にかけて一週間の短期留学で来校しました。

ウイルキンソンさんは母国でも日本語に興味を持っており、勉強しているとのこと、たどたどしいながらも「ミナサン、ヨロシク、オネガイシマス」と職員室で先生方にあいさつをしたあと、さっそく、普通科、英進科などで本校生徒と一緒に机をならべて英語、国語などの授業を受けました。

なかでも生活教養科が開いた「着つけ教室」に特別に招かれたウイルキンソンさんは永島先生や着つけ教室の先生方に手伝っていた、実際に自分で身につけた着物姿に、青い眼を輝かしながら「ニホンノキモノ、スバラシイ」と大喜びでした。



着つけ教室のウイルキンソンさん

## 告知板

岩舟中学校長

前田英雄先生から

須賀校長先生へ

美しい「バラのコサージュ」を頂戴し感謝の気持ちで一杯です。同封の封書を誠に恐縮ですが関係生徒にお渡しただければ幸いです。

では最後に貴校の益々のご発展と校長先生はじめ所属職員の方々のご多幸とご健康を心からご祈念申し上げます。のごあいさつといたします。

敬具

横川中学校長

鈴木基司先生夫人静枝様より

二年十三組

黒川敦子さんへ

バラのコサージュありがとうございました。横川中学校の教員をしている主人から、宇短大附属高校の生徒の作品であると聞き、あまりのすばらしさ

にびっくりしました。

エレガントな作品で好みの色です。演奏会の折に使わせていただきませう。そして手作りの温かみのあるコサージュのように、聞く人の心を打つ音楽会にしたいと思っております。ご自愛のうえ、有意義な高校生活を送って下さい。先ずは御礼まで。

加蘇中学校長

中村 裕先生から

三年八組

大谷和美さんへ

過日は須賀校長先生のご招待で、貴校に御邪魔をいたしました。その折に御土産としてフルーツケーキを戴きました。その日のうちに味わいましたが、形といい、味といえすばらしくロードリーで感動いたしました。

あなたにはお逢いしてはいいませんが、ケーキに添えられたメッセージは距離感を短くしたようです。間もなく卒業のようですが、残り少ない高校生活を有意義にエンジョイして下さい。校長先生、その他の先生も沢山知っていますのでどうぞよろしくお伝えください。

右先ずは御礼まで。

栃木東陽中学校

安生幸比古先生から

三年五組

笹本由紀さんへ

前略 先頃の中学校長を対象とした御校の入試説明会の折、貴女の作製されましたバラのコサージュをお土産として頂き誠にありがとうございました。私の妻も大変すばらしい出来ばえに喜んでおります。生活教養科の作品の発表会も大変よく出来、皆さんと共に驚かされました。すばらしい学校で大いに勉強して下さい。先ずはお礼まで。

草々

柏尾中学校長

大橋 寛先生から

三年八組

入江小百合さんへ

前略

残暑厳しい毎日が続いておりすが、お元気で勉強に・運動にご活躍のことと存じます。去る九月十二日、貴校の平成二年度



## 校 史 と 校 章

いよいよ今年秋には本校創立90周年を迎えます。その創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇とに順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展させてゆかれました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校となり、さらに、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校と改名されました。友正先生の後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀 淳先生です。先生は宇都宮短期大学附属中学校を設置し、ますます学校を発展させて、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校はそのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えで、私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校には、現在に至るまで、いくつかの校章がありましたが、現在使われている校章の由来は、創立者須賀家の祖先が武士の旗印として使っていた、「ス」の文字を3つ組み合わせたものです。